

(別紙 8)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0172001059		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームユニティー小樽		
所在地	小樽市銭函3丁目297番地5 (電話) 0134-62-1294		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年4月21日	評価確定日	平成21年5月8日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームユニティー小樽」は、JR銭函駅に近い国道沿いの交通便の良い場所に立地している。広々とした落ち着いた建物で、吹き抜けの天窓からは日中は自然光が降り注ぎ、夜間は、星空を眺めることができる癒しの空間となっている。事業主体となる法人は、訪問看護やヘルパーステーション、居宅介護支援事業など高齢者の福祉事業を行い、法人内の研修も計画的に行われるなど充実した職員教育が行われている。ホーム長は、職員の自己啓発について常に考え、地域との交流を深めながら、利用者がいつまでも笑顔で元気に過ごせるよう職員と共に日々温かなケアに取り組んでいる。利用者は、職員と共に支え合いながら明るい笑顔で穏やかに過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の退職時の利用者への挨拶、外気浴をする時の暑さしのぎのテントの準備や災害時の地域への協力依頼など、前回の取り組みは、殆ど積極的に取り組みが行われて改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表を各職員に渡して3週間かけて記入して貰い、全職員で話し合い、ホーム長や管理者がまとめている。各職員は自己評価を行う事により日々の介護を振り返る機会になり、介護職員として求められている事を再確認することができたと感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、事業所の行事や職員の研修状況、事業所で独自に行っている家族アンケートの結果報告などを行っている。外部評価や地域の災害援助についても議題に取り上げ、災害時の地域との連絡網の作成に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族とは、意見などを言って貰える良い関係が築かれ、家族からの相談や苦情は、家族相談表やクレーム報告書に記録して会議で話し合い、結果はホーム長が家族に報告している。年1回、職員の言動、食事や水分管理など数項目の家族アンケートを実施している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、文化祭の展示見学や運動会の競技に参加している。町内会長より、町内会行事への誘いの電話を直接貰ったり、利用者が乗る車の手配をして貰えるなど地域住民としての交流が盛んに行われている。今後は、地域の要望に応じて、認知症の勉強会などを開催していきたいと考えている。

【情報提供票より】(平成21年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 28日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	15人, 非常勤0人, 常勤換算15.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	平屋一部2階建て	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000円	その他の経費(月額)	水道光 20,000円	
敷金	有(円)	暖房費	10,000円(11-3月)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり		1,400円	

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	17名	男性	7名	女性	10名
要介護1	3名	要介護2	0名		
要介護3	8名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	70歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひまわり会札幌病院・札幌デンタルクリニック
---------	-----------------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の、利用者の「自由な意思を尊重し、心の触れ合いを大切に心地よい安宅を創る」という理念に、地域密着型サービスの理念として、「地域の方々と共に喜び歩む暮らしを創造する」という内容の理念を職員全員が思いを出し合い作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、パンフレットに掲載すると共に、各ユニットの事務所に掲示し、毎日、申し送り時に職員の代表者が読み上げている。毎月の会議でも理念を再確認している。また職員、ボランティアの面接時、採用時研修、運営推進会議でも説明をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、文化祭の展示見学や運動会の競技に参加している。町内会長より、町内会行事への誘いの電話を直接貰ったり、利用者が乗る車の手配をして貰えるなど地域住民としての交流が盛んに行われている。事業所で行うバーベキューにはテントを貸して貰い、地域住民の手伝いも受けている。今後は、地域の要望に応えて、認知症の勉強会などを開催していきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を各職員に渡して3週間かけて記入して貰い、全職員で話し合い、ホーム長や管理者がまとめている。経験の浅い職員は難しく感じる項目もあったが、各職員は自己評価を行う事により日々の介護を振り返る機会になり、介護職員として求められている事を再確認することができたと感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、事業所の行事や職員の研修状況、事業所で独自に行っている家族アンケートの結果報告などを行っている。外部評価の結果を議題に取り上げることにより、災害時の地域連絡網の作成に取り組むなど運営推進会議が活かされている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に、受診の帰りに利用者と一緒に週1回以上訪問するなど、顔見知りになり、気軽に相談できるような関係作りを常に心がけている。認定の更新手続き書類の提出に利用者本人と出向いたり、おむつ支援の相談、事業所の状況などを機会がある度に話をして理解が得られるように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ユニティー通信」とユニット毎のホーム便り、個別の手紙で利用者の健康状態などを家族に報告している。毎月、金銭出納帳のコピーと請求書、領収書原本を送付している。受診や往診後は電話で健康状況を毎回家族に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは、意見などを言って貰える良い関係が築かれ、家族からの相談や苦情は、家族相談表やクレーム報告書に記録して会議で話し合い、結果はホーム長が家族に報告している。年1回、職員の言動、食事や水分管理など数項目の家族アンケートを実施している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は、礼儀として利用者に報告をして、最後に挨拶するようにしている。職員の離職により、利用者が悲しんだり、寂しがることもあるが、職員も共に悲しみや寂しさを共有しながら、楽しいことなどを話し、利用者のダメージが最小限になるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各事業所、ユニット毎に研修委員を決め、研究発表や、医師を講師に招いての研修など法人研修が計画的に行われ充実した職員教育が行われている。外部研修にも積極的に参加する機会を設け、研修報告を行ない全職員で研修情報を共有している。内部研修は毎月開催し、職員の介護技術向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流会や小樽市銭函地区のグループホームをホーム長が訪問する際、職員も同行して交流する機会を設けている。今後も、銭函地区の他のグループホームとの交流を行い、情報交換を積極的に行っていく意向である。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の申し込み手続き後に、ホーム長が何度も本人に会いに行く事で顔なじみの関係を作り、来訪の際、「何処かで会ったね」と言って貰う事で、ホームに馴染めるように工夫をしている。入居後は、職員が積極的にコミュニケーションを取り、少しづつ他の入居者とも馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	社会の中で、利用者自身が役に立っていると思えるように、買い物荷物を持ったり、受診後に薬を持って貰うなどの工夫をしている。馴染みの職員との別れも、利用者や職員が哀しみを共にするなど、日々の生活の中でお互いに支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員が利用者の思いや意向を分かろうとする気持ちが重要であると考えている。日常生活を共有する時間の積み重ねから、一人ひとりの利用者を観察し思いを汲み取っている。入浴や一对一の外出時には、本人が話し易い気持ちになることがあるので、その思いを聴くように心がけている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>新規作成の場合は、日常の生活動作や認知症の症状、病気などを中心に情報を収集し、本人の思いや家族の希望を取り入れてサービス担当者会議で検討して作成している。本人のできること、できそうなことを観察し1ヵ月後にユニット会議で本計画を作成している。計画は、本人と家族が同席して説明を行っているが、郵送する場合は電話で説明をしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとに定期的な見直しをしている。日常の生活動作が低下してきたり、認定更新で介護度が重くなったり、落ち着きがなくなるなどの状態変化に応じて見直しをしている。本人のことを分かっているのは家族であり、家族と話し合い要望を取り入れ計画に反映させている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制はないが、本社から週1回看護師が訪問し、協力医療機関からは2週に1回往診があるので、事業所内で点滴を行うなど柔軟な支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には、協力医療機関の往診があることは説明しているが、本人のかかりつけ医を大切に選択は本人、家族に任せている。家族が通院の介助を行うこともあるが、難しい場合はホーム長が対応し、かかりつけ医との信頼関係を築いている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、本人と家族の考えを聞き、事業所としての緊急時の対応や重度化した場合の方針を口頭で話し合っている。重度化した場合は、入院となるのか事業所での対応が可能であるのかは、その都度話し合い、面談内容を記録している。往診を受けている場合は、事業所として看取りをしていく意向はある。		事業所の方針を文章にしていきたいという意向があるので、その取り組みに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを守ることは、難しいことであると考えている。職員が自分の感情をコントロールし、言葉かけに注意するよう指導している。排泄に関しての申し送りは専門用語を使い、第三者に分からないように配慮している。記録類は、事務所の鍵付きの棚に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間やおやつ、体操の時間を書いた「一日の流れ」を居間の壁に貼って日課としているが、その日の体調や気分に応じて本人のペースで過ごしている。買物に行きたい、散歩に行きたいという場合は、職員体制を調整して外出している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、各ユニット毎の別献立で食材配達業者の栄養士が作成している。利用者の嗜好は、外食や行事食に採り入れている。大根や人参の皮むき、切る、茶碗を拭く、おしぼりをたたむなどの一人ひとりの力を活かしている。利用者は、懐かしい歌謡曲を聞きながら職員と食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	「今日、入りたい」という希望に対応できるように毎日、午後から入浴できる体制を整えている。1名の利用者が週に2回以上はゆっくりと入浴できるようにしている。拒否がある場合は、足浴や清拭に変更したり、受診日の前に入浴することができるよう言葉かけをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップがけや雑巾がけ、共用空間の電気を消す、洗面所を拭くなどのそれぞれの役割をもって生活をしている。事業所内でカラオケやボーリング、四文字熟語ゲームなどをしたり、食堂のテーブルを利用して卓球を楽しむこともある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は、天候や体調に応じて週に2回は事業所の近辺を30分くらい散歩しており、日向ぼっこは毎日している。冬季は、受診や買物の外出はあるが頻度が少ないのが課題であると考えている。		冬季の外出が課題であると考えているので、五感の刺激のためにも外出頻度を増やすことができるよう、期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い国道に面しているが、玄関は鍵をかけていない。玄関の戸にセンサーを設置し、居間に続く戸には鈴をつけて出入りを把握している。共有空間から玄関を見渡すことができるので、出かける様子が見られる時は、職員と一緒に散歩をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て、日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。初期消火、通報、避難という一連の流れと夜勤者2名の役割なども明確にしている。隣家の住民や町内会会長への協力依頼を行っている。次回の運営推進会議で町内会の連絡網を作成する予定である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成しており、一日のエネルギー量と塩分を管理している。水分は食事以外に800～1000ml摂取することを目標に味噌汁の量を多くしたり、ご飯をふっくらと炊くなどの工夫をしている。口腔内の乾燥や尿の色、量などを観察することで脱水を予防している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の周囲に居室が配置され、吹き抜けの天窓から自然光が降り注いでいる。広い食堂には3つの食卓テーブルが並び、テレビを囲むようにソファやベンチが置かれている。居室やトイレ、浴室の戸は茶系の色調で統一しており、壁には紙細工の大きな桜の木が貼ってある。夜間は、天窓から星空を眺めることができる癒しの空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入り口には、表札を掛けたり本人の写真を貼ってあり、長年使い込んできた筆筒、愛着のあるぬいぐるみ、家族の写真などが持ち込まれている。居室に電話を引き、家族や友人と会話ができるようにするなど家族と連携して居心地の良い居室づくりをしている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。